

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	地域医療推進室	職	室次長	氏名	紺島 和昭
評価者	組織	地域医療推進室	職	室次長	氏名	細木 信哉

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	医師の確保と資質の向上	能登北部における医療施設従事医師数 (人口10万対)	人	H26比維持 (R7)	161.0 (H30)	158.7 (R2)	A
施策2	医療連携体制の整備	退院支援(退院調整)を受けた患者数	人	R1比増 (R4)	29,322 (R1)	37,931 (R3)	A

※H26:145.5人

※データのない宝達志水町、穴水町除きで集計

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
						(年度)	(年度)						
施策1	課題1	医師確保	能登北部における医療施設従事医師数 (人口10万対)	人	H26比維持 (R7)	161.0 (H30)	158.7 (R2)	1:緊急医師確保修学資金貸与事業	金沢大学医学 類特別枠生	144,000	133,000	B	継続
			県内自治体病院の医師数	人	R3比増 (R3)	430.6 (R3)	433.4 (R4)	2:地域病院医師確保サポート事業	金沢大学附属 病院	9,000	9,000	B	継続
施策2	課題1	認知症高齢者の早期退院と在宅療養 の支援	かかりつけ医等認知症対応力向上研修修 了者数(医師累計)	人	1,100 (R3)	997 (R2)	1,051 (R4)	1:認知症医療体制推進事業	地域の開業医、 介護従事者等	3,950	2,940	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: 緊急医師確保修学資金貸与事業	事業開始年度: H21	事業終了予定年度:
	根拠法令・計画等: 緊急医師確保修学資金貸与条例及び同規則	

作成者	組織: 地域医療推進室
	職・氏名: 専門員 細川 達也
	電話番号: 076 - 225 - 1449 内線 4173

事業の概要

- 国の緊急医師確保対策に基づき、金沢大学医学類の入学定員が平成21年度から5人増員されたことを受けて、修学資金貸与制度を創設
- 骨太の方針2009に基づき、平成22年度よりさらに5人増員。
- 卒業後は金沢大学附属病院で臨床研修を行った後、県が指定する病院で勤務する。

貸与対象者: 金沢大学医学類の医学生で、本県の地域医療に貢献する強い意思を持っている者

貸与人数: H21入学者: 5人
 H22～R2入学者: 毎年10人
 R3入学者: 7人
 R4入学者: 10人

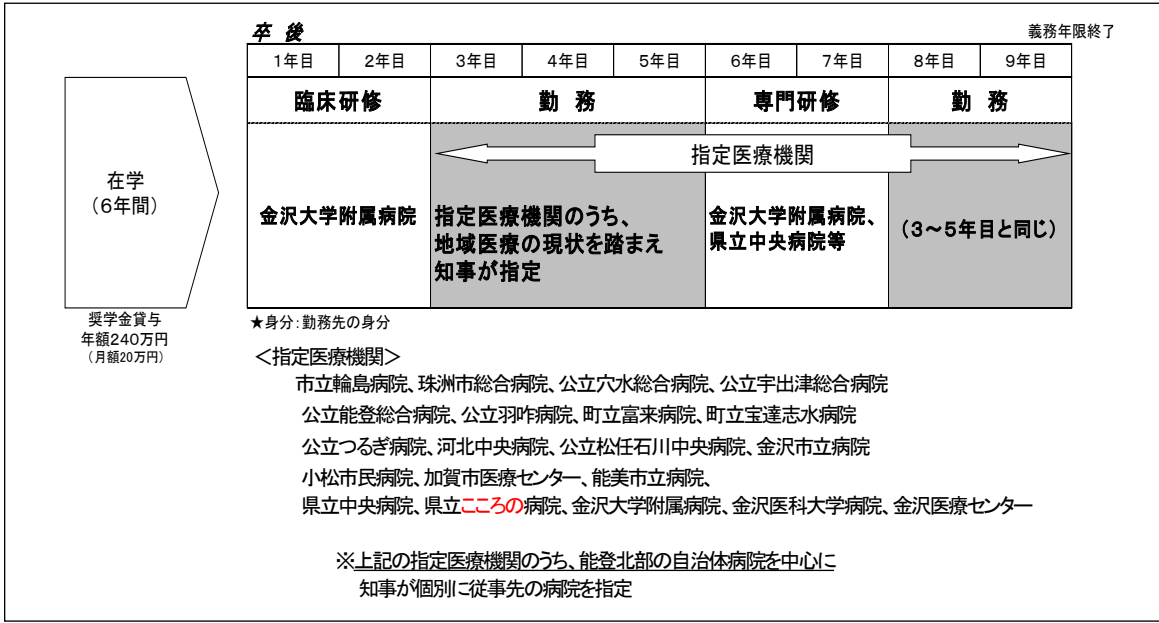
貸与額: 年額2,400千円(月額20万円)

施策・課題の状況					
施策	医師の確保と資質の向上	評価	A		
課題	医師確保				
指標	能登北部における医療施設従事医師数(人口10万対)	単位	人		
目標値	現状値				
令和7年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度
H26比維持	137	145	144	161	159

事業費						
(単位: 千円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	144,000	144,000	144,000	144,000	144,000
	決算	144,000	150,000	141,200	131,400	133,000
一般	予算	60,000	48,000	36,000	24,000	12,000
	決算	55,200	54,000	33,200	18,600	8,200
事業費累計		992,600	1,142,600	1,283,800	1,415,200	1,548,200

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center;">左記の評価の理由</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</p> <p>将来地域医療に貢献する意思を持っている応募者から選抜の上、新たに10名に貸与した。 修学資金を貸与し養成された医師は、平成29年度以降、継続的に地域医療の現場で診療に従事しており、能登北部の医師確保に貢献している。 <特別枠勤務医師数(累計)> ※各年4月1日時点(H29 4人、H30 11人、R1 20人、R2 28人、R3 39人、R4 52人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">継続</p> <p>能登北部を中心として診療に従事する医師の確保につながっており、地域医療を担う医師の確保のために不可欠な事業であり、今後も継続する。</p>

(参考)義務年限中の勤務形態



事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域病院医師確保サポート事業	事業開始年度 H27	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	医療介護総合確保促進法に基づく石川県計画

作組	織	地域医療推進室			
成職	氏名	主事 西田 圭吾			
者	電話番号	076 - 225 - 1449 内線 4109			

○ 事業の目的
 地域の病院で医師の不足感が強い、小児科、麻酔科、産婦人科等の診療科では、近年、女性医師の割合が多くなっており、妊娠・出産・育児などのため地域の病院への派遣に消極的であったり、派遣されても当直が困難といった声が多い。そのため、金沢大学附属病院による「地域病院サポートチーム」に対して助成することにより、地域の病院への派遣医の勤務支援体制を構築し、地域の医師確保につなげる。

○ 事業の概要
 医師の地域偏在がある診療科において、地域の病院を支援するため、金沢大学付属病院に「地域病院サポートチーム」を編成

対象診療科： 小児科、麻酔科、産婦人科

① チーム内の勤務調整により、地域の派遣医（病院）の要望に応じ、宿日直勤務などの代替要員を派遣

② 代替要員派遣により地域病院での勤務が可能となる医師を派遣し、地域病院の常勤医の増員を図る

○対象経費： 人件費、活動費

○補助額： 9,000千円

施策・課題の状況						
施策	医師の確保と資質の向上				評価	A
課題	医師確保対策					
	指標	県内自治体病院の医師数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	R3比増	426.6	433.1	466.4	430.6	433.4
事業費						
	(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費	予算	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000
	決算	90,000	9,000	9,000	9,000	9,000
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		58,000	67,000	76,000	85,000	94,000
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	事業の有効性	B	小児科、麻酔科、産婦人科において、以下支援により、地域の病院における医師確保、ひいては医療体制の確保につながった。 (小児科) 外来診療支援(2病院で毎日)、週末等の宿日直支援(5病院で月1-2回、1病院で週3回) (麻酔科) 手術麻酔のサポート(1病院で週5回、2病院で週1-2回) (産婦人科) 外来診療、日当直、手術の応援等(5病院で週1-2回、2病院で不定期、1病院で週3-4回オンコール)			
	今後の方向性		継続	今後も、小児科、麻酔科、産婦人科については、地域の病院での医師確保が厳しいことから、引き続き「地域病院サポートチーム」を支援し、地域病院における医師確保に努める。		

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 認知症医療体制推進事業	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	石川県医療計画、石川県長寿社会プラン		

作成者	組織	地域医療推進室			
	職・氏名	主事 東海 真悠			
	電話番号	076	-	225	-
				1468	内線 4126

1 現状と課題

○本県の認知症高齢者数は、平成24年時点で約4.3万人であり、令和7年(2025年)には、約6.5万人～7万人に達すると見込まれている(「石川県長寿社会プラン2018」)。

○平成27年1月に策定された「新オレンジプラン」では、かかりつけ医の認知症対応力を高めるための研修や、かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役となる認知症サポート医の養成を進めることとされている。

○認知症高齢者ができる限り住み慣れた地域で生活していくためには、身近な存在であるかかりつけ医が認知症についての正しい知識を身につけるとともに、看護師やケアマネージャーなどの多職種と連携しながら、認知症高齢者の状態を把握し、適切な対応を行って行く必要がある。

2 事業の概要

①かかりつけ医等認知症対応力向上研修
認知症患者の身近な存在であるかかりつけ医等が、認知症に関する正しい知識や多職種との連携方法を学び、適切な診断や患者・家族への支援を行うことができるよう研修を企画・開催する。

■研修カリキュラム
座学(90分)1回＋多職種が参加する事例検討会(120分)2回
※座学:年2回開催(テレビ会議を活用し、4会場で同時開催)
事例検討会:県内の都市医師会単位(金沢市のみ4地区)で延べ23回開催。

②認知症サポート医のフォローアップ研修の開催
養成した認知症サポート医が地域で適切に役割を果たせるよう、認知症の診断・治療・ケアに関する最新の知識の講義や、対応困難事例の検討を行う研修会を開催する。

③認知症医療体制推進委員会の開催
本県の認知症医療体制に係る施策の方向性(研修の企画等も含む)について検討を行う委員会を開催(長寿社会課が所管する「石川県認知症施策推進会議」のワーキンググループとして位置付けられている。)

施策・課題の状況						
施策	医療連携体制の整備	評価	A			
課題	認知症高齢者の早期退院と在宅療養の支援					
指標	かかりつけ医等認知症対応力向上研修修了者数(医師累計)	単位	人			
目標値	現状値					
	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	1,100	976	997	997	997	1,051
事業費						
(単位:千円)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業費	予算 4,500	3,950	3,950	3,950	3,950	
	決算 3,800	3,075	0	0	2,940	
一般	予算 0	0	0	0	0	
財源	決算 0	0	0	0	0	
事業費累計	19,141	22,216	22,216	22,216	25,156	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	かかりつけ医等対象の研修会(2回)及び多職種対象の事例検討会(12地域のべ23回)を通じた、関係者間の連携強化や認知症診療や介護の質の向上により、認知症患者を地域で支える体制づくりにつながった。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、R2、R3は開催を見送ったため、累計受講者数が目標値に届かなかった。 (R4実績) ・座学:2回 ・事例検討会:延べ23回 ・修了者数:310人(医師54人、薬剤師18人、看護師45人、介護支援専門員78人 など)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	高齢化が進行する中、認知症患者数は今後ますます増加が見込まれることから、医療・介護に携わる多職種が協力し、認知症患者を地域で支える体制を構築・強化するため、今後も引き続き、かかりつけ医向けの研修会や各地域ごとの関係者を集めた事例検討会を開催する。				